

経営と健康

第3回 プロ野球チームのビジネス

講談師 一龍斎貞花

費用対効果、設備投資功罪も言われるが、先を見据えての投資もある。広島がファン対策投資したのが大成功。メジャーのアカデミー制度を参考に、外国人選手発掘、育成のためドミニカに1990年アカデミー設立。すごいパワーにメジャーも注目のバティスタは、6年契約の3年目年棒4千万円。メヒア、フランスア、ソリアーノ契約。活躍はともかく、チェコ、ペレス、ラミレスはメジャー選手になった。ソフトバンクは三軍制。施設の充実により、千賀、甲斐をはじめ、外野陣全滅による若手起用もあるが、大竹、二保、牧原、周東、釜元等育成選手が起用に応えている。昨年末働きた石川も育成。ドラフト順位はともかく高橋礼、泉、三森、美間など働いている。この育成力の素晴らしさを見込んでメジャー入りを拒否したスチュワートが契約。巨人にも以前山口鉄也

という大活躍した育成上りの選手がいた。今年ドラフト選手だが巨人も中川、大城、若林、重信が働いている。記者さえ名鑑片手という有様。他球団も若手の起用が目立っている。半面故障者も多い。かつては個人契約トレーナーを嫌うという球団もあったが、故障者を出さない対策も必要であろう。

庶民の夢だった年棒

「長嶋さん、アップすると累進課税のため、今より手取りが減りますよ」

かくして年棒上昇が抑えられ、長嶋さんがドンドンアップしてくれたらよかったですのと言われたことがあった。

選手会年棒調査結果が発表された。

下記の表は、今季開幕時支配下登録選手の平均年棒と総額順位の一部。外国人選手は選手会に加入していないので

		平均年棒	総額
1位	巨人	6,926万円	38億7,808万円 (菅野大幅昇給・丸加入)
2位	ソフトバンク	6,538万円	39億2,303万円 (昨年末まで3年連続1位、梶津・五十嵐退団)
3位	阪神	4,381万円	25億8,492万円
4位	楽天	4,288万円	26億1,572万円 (浅村加入 但しFA据置き2億1千万円)
5位	広島	3,887万円	23億7,106万円
11位	中日	2,973万円	18億1,363万円
12位	オリックス	2,654万円	16億1,915万円 (金子・西退団)

全球団平均 3,985万円 731人総額291億3,105万円
一軍平均 7,187万円
年棒1億円以上 前年67人 → 57人に減少

除外。

上位常連だった中日、6年連続Bクラスで11位に減少。

選手最高は、巨人菅野6億5千万、坂本5億。ソフトバンク柳田5億7千万、内川、松田4億。育成上

り千賀1億6千万、甲斐6千5百万。山田哲(ヤ) 4億3千万、筒香(D) 4億、糸井(神) 4億。かつて最下位だった広島5位、但しチームは菊池涼の2億4千万、鈴木1億6千万、大瀬良1億4千5百万。西武山川1億1千万。年功序列がある一方、FA選手の急上昇対策から規定以上のダウンも続出しています。

外国人選手では、サファテ(ソ) 5億、バレンティン(ヤ) 4億4千万、デスパイネ(ソ) 4億。中日はビシエド3億7千万、日本人最高は大島、平田1億8千万、チーム成績に比例。

一方、首脳陣はと申しますと、監督、首脳陣年棒とチーム成績は比例していない。ソフトバンクは首脳陣は低いが

監督以外の 首脳陣総額		2千万円 以上	監督年棒
巨	29人 4億5800万	8人	原 (巨) 3億
中	21人 4億6600万	15人	与田 (中) 1億5千万
ソ	25人 3億3800万	0	栗山 (日) 1億1千万
広	19人 2億3300万	0	工藤 (ソ) 1億
業	18人 2億3,800万	0	矢野 (神) 1億
			ラミレス (D) 8千万
			緒方 (広) 8千万
			小川 (ヤ) 8千万
			井口 (ロ) 8千万
			辻 (西) 7千万
			西村 (オ) 6千万
			平石 (楽) 5千万
			中日 伊東ヘッドコーチ 8千万
			元日本一監督

日刊スポーツ
選手名鑑より抜粋

選手に厚遇。ファンに夢を与えている。

これらの金額はあくまでも公表であつて実際は？ 原監督4億説も。かつて落合監督は1億5千万の公表、実質4億5億とも。附帯条件も格差。落合監督は、優勝パレードは契約にないからと4百万円で参加。ファン感謝デーの挨拶は契約に無いからと挨拶せず。

中日は、選手年棒は低いが、首脳陣年棒は高額。落合監督が首脳陣年棒引き上げ、2軍監督1億もあった。

金子(オー日)は5億の公表も実際は6億だった。日ハムに移籍し1億5千万に減額。高年棒だった森福

(ソ)不振だったが巨人がFAで獲ってくれ、ソフトバンク内心大喜びでした。

観客動員アップにより経営が好転すれば選手の年棒アップ、広島が好例。

ちなみにメジャーの一例。シャーマー、ナショナルズ投手(2018年)1ドル113円換算で、41億1,461万円。エンゼルスのレストラン外野手、史上最高12年約475億。

コロラド・ロッキーズの本拠クアーズ・フィールド、50ドル、約5,500円でバックネット裏席も。ヤンキーススタジアムでは最上階近くの席という。大リーグの観戦費用は、入場券、飲食代など、球場によつて最大2・7倍もの格差。日本でも格差はあるが、こんな大差はない。ハンバーガーだけで野球と言われたマイナーリーグも球団から食事が出るようになったようです。

球団事情もあり数字だけでとやかくは言えないが、勝ち、観客動員アップしてくれるなら、高額でも構わない。高収益で社員の給料上げてくれるなら、役員の高額報酬結構。社員の給料は上げず自分たちだけ高額。そんな経営者はいらっしやらないでしょうね。投資をしたが効果が上らなければ、設

備投資過剰は一般企業も同じこと。適切な投資が大切。

他スポーツの動向

サッカーは、プロ野球のマイナス面を排除しブーム。一時ダウンしたがその後再生し、年棒もプロ野球と違って試合数の少なさから、1億円以上の選手は少ないが、地域性を活かしJリーグ成功。サッカーのJ1、J2、J3の地域密着型を踏襲しようというのがバスケットのBリーグ。千葉の富樫選手が、Bリーグ初の1億円。Bリーグ入団時は半年で100万円だった。観客数も伸び、3年で事業収益は300億円を突破。B1所属選手(日本人)の平均年棒は1310万円。リーグ開幕時より約500万円増。クラブが事業を大きくしてきた結果という。野球のBCリーグも地域の市民、企業の支援あつてのことだが、支援を受けられるよう活動しているチームと、そうでないチームもあり、格差が生じている。ラグビーもワールドカップで盛り上がっている。卓球も、クラブ対抗など人気のあるうちに活性化を図っている。バドミントンにはバードジャパン。

プロレスも、テレビ中継がなくなりダウンしたが、今新たにブームになっている。新日本プロレスは、昨年の決算で過去最高益を記録の由。女性や家族連れで楽しむ興行だ。会場は全面禁煙、泥酔者入場禁止、客の4割は女性で20代、30代が多いという。応援選手のTシャツを着るなど、野球、サッカーと同じ、人気選手育成に尽力。ソフトボールも、オリンピックで好成績をあげること、一方で五輪競技から外されると大きくダウンする。女子ゴルフは、黄金世代で男子を逆転。相撲も不祥事が続きながら連日大入満員。人気者を輩出すること。わかっているが、人気者、ヒット商品はなかなか作れない。マスコミに乗ることも大切だが、地域密着、ファン獲得が重要。だから相撲は巡業をする。大手町の室内でデジタルスタジアム、横幅17メートルの大屏幕、スピーカー26台、臨場感たつぷりのサッカー劇場、スタジアムに行かない人も楽しめるという。離れていったファンを呼び戻すのはむづかしい。現在のファンを大切にすると共に、新しい顧客獲得への努力を怠ってはいけませんね。サッカー劇場も努力の一つでしょう。ペイすることを祈ります。